

IV. 普及・公開活動の記録

埋蔵文化財展

愛知県埋蔵文化財センターでは、遺跡の発掘調査により発見された資料を広く公開するとともに、歴史講座や体験プログラムなどの企画を通じて、県民の埋蔵文化財に対する理解を深め、文化財保護意識の向上を図ることを目的とした埋蔵文化財展を行っている。

2019年度は、春に愛知県埋蔵文化財調査センターと共催し新出土品展と重要文化財の特別公開を行った。また、秋には名古屋市博物館と中日新聞社などと共催して名古屋市博物館で特別展「発掘された日本列島2019」展の地域展として「尾張の城と城下町 三英傑の城づくり・町づくり」を開催した。

春の埋蔵文化財展

- 1 会場：愛知県埋蔵文化財調査センター
- 2 会期：平成31年4月3日（水）～4月14日（日）
- 3 開催趣旨：「やとみ新発見展（しんはっけんでん）！」と題して昨年度の発掘調査成果を中心に展示し、展示解説を実施。入館無料。

4 内容

「やとみ新発見展！2019」2階収蔵庫Cにて
2019年度に本発掘調査Bを実施した7遺跡（北丹波・東流遺跡、一色青海遺跡、清洲城下町遺跡、牛寺遺跡、下懸遺跡、滝瀬遺跡、石原遺跡）および整理作業を実施した川向東貝津遺跡の出土遺物と写真パネルなどを展示。
「食と文化の考古学 煮炊きの道具の歴史」
2階収蔵庫Cにて展示
「食と文化の考古学 石の道具の歴史」
2階資料管理閲覧室にて展示。
配布資料として埋文展ニュース「埋文桜ニュース2019」を発行し、遺跡の概要説明と本年度イ

ベント案内および愛知県埋蔵文化財調査センター春の特別公開の展示解説を掲載。

5 考古学縁日

平成31年4月13日（土）と4月14日（日）に弥富市社会教育センター（弥富市主催）で開催された「やとみ春まつり」に合わせて実施し、さまざまなワークショップを行った。

ツボ釣り（やとみ春まつり会場テントブース）参加者1021名（2日間）

キネクトゲーム（愛知県埋蔵文化財調査センター2階）参加者300名（2日間）

6 その他

期間中、愛知県埋蔵文化財調査センターは春の特別公開と題して国重要文化財の朝日遺跡出土品から4点の土器を展示した。また、考古学縁日当日は「輪投げ」と「火起こしマスター」を実施した

7 入館者数：1036名

（うち4月13日は347名、4月14日は276名）

平成31年度 愛知県埋蔵文化財調査センター 春の特別公開 & やとみ新発見展 2019

期間：平成31年4月3日（水）から4月14日（日） 休館日：4月6日（土）・7日（日）
開館時間：午前9時から午後4時まで 入場無料

平成31年度発掘調査成果展示会場
愛知県埋蔵文化財調査センター 春の埋蔵文化財展

平成30年度の発掘調査成果の展示会場、県内で一番最初に、この展示で行いましょう！

高瀬遺跡 石原の出土品
高瀬遺跡 石原の出土品
朝日遺跡の重要文化財

縁日開催！ 4月13日・14日のみ！ 入場・参加無料！
（注）「やとみ春まつり」は午後4時から午後6時まで、14日は午後6時から午後8時まで

ツボ釣りのわなげ
火起こしマスター
キネクトゲーム

愛知県埋蔵文化財センター

〒468-0017 愛知県弥富市加賀野力802-24
TEL 0567-67-4101 FAX 0567-67-3064
ホームページ <http://www.mabos.com>

▲春の埋文展 チラシ

埋文桜ニュース

2019年4月30日発行

愛知県埋蔵文化財調査センター

平成31年度の調査予定遺跡

一色城遺跡、下懸遺跡、牛寺遺跡、清洲城下町遺跡、東流遺跡、北丹波遺跡、滝瀬遺跡、石原遺跡、川向東貝津遺跡

2019考古学の祭典 考古学セミナー

2019年4月13日・14日（土・日）
名古屋市中区栄1-1-1
名古屋市中区栄1-1-1
名古屋市中区栄1-1-1

新設 発掘伝6

▲「埋文桜ニュース」

秋の埋蔵文化財展

1 展示名称

特別展「発掘された日本列島2019」展の地域展「尾張の城と城下町 三英傑の城づくり・町づくり」

2 会場：名古屋市博物館 部門展示室

3 会期

令和元年11月16日(土)～12月28日(土)

休館日：毎週月曜日(祝休日の場合は開館、翌平日休館)、第4火曜日

開館時間：9時30分～17時(入場は16時30分まで)

4 主催

文化庁・名古屋市博物館・中日新聞社・全国新聞社事業協議会・愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会・公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

5 内容

尾張地域における中近世城館の発掘調査成果から、築城やインフラ整備などの「土木事業」に焦点を当て、信長・秀吉・家康という「三英傑」ゆかりの城の変遷を通して、戦国時代から江戸時代への流れをダイナミックにたどる。主な内容構成は次のとおり。

序章 中世の那古野

第1章 新しい時代の始まり

(織田信長の城づくり・町づくり)

第2章 東日本最大級の都市

(豊臣秀吉の城づくり・町づくり)

第3章 究極の城と城下町

(徳川家康の城づくり・町づくり)

愛知県埋蔵文化財調査センターをはじめ名古屋市博物館、名古屋市教育委員会、名古屋城総合事務所、名古屋市蓬左文庫、清須市教育委員会、小牧市教育委員会が所蔵する資料79種591点を展示し、写真パネルと解説パネルを掲示した。

6 ガイドブック

B5判80頁カラー印刷

7 関連事業

地域展に関連する事業として連続講座4回を実施した。(1階展示説明室)

第1回11月24日(日)午後1時30分～2時30分「織田信長の城づくり・町づくり(小牧山城とその城下町)」鈴木正貴---参加者132名

第2回12月14日(土)午後1時30分～2時30分「豊臣秀吉の城づくり・町づくり(清須城とその城下町)」鈴木正貴---参加者134名

第3回12月15日(日)午後1時30分～2時30分「徳川家康の城づくり(名古屋城とその武家屋敷)」鈴木正貴---参加者103名

第4回12月22日(土)午後1時30分～2時30分「徳川家康の町づくり(名古屋城下町)」岡村弘子---参加者114名

8 入館者数：8938名(35日間)

なお、ガイドブック販売数は711部である。



▲ガイドブック表紙

▲秋の埋文展 広告チラシ

春の埋蔵文化財展



▲会場施設入り口



▲やとみ春まつり会場での展示



▲キネクトゲーム



▲やとみ新発見展 展示室

秋の埋蔵文化財展



▲名古屋市博物館 展示室入り口



▲開会式



▲展示状況 (序章 那古野城の遺物)



▲展示状況 (第2章 後期清須城の瓦)



▲名古屋市博物館 展示会場のようす



▲展示状況 (第2章 清須城石垣土台木)



▲内覧会のようす



▲展示解説

第8回 考古学セミナー「あいちの考古学2019」

概要： 考古学セミナー「あいちの考古学」は、愛知県内および近隣地域で活動する県・市町村教育委員会、公益財団法人、大学、特定非営利活動法人（NPO）、研究グループ、関連企業などが一堂に会して遺跡調査と考古学に関係する研究成果を広く一般に公開し情報を共有することを目的に、平成24年度より開催している。名古屋市博物館が会場となって6年目となる。

今回は、同時に名古屋市博物館において開催されていた「発掘された日本列島2019」展と「尾張の城と城下町－三英傑の城づくり・町づくり」地域展に合わせて、12月8日（日）の午後にシンポジウム「城下町を彩った金・銀・銅」を開催した。継続して参加されている方だけでなく、初めて参加された方も多数あった。

主 催：名古屋市博物館・愛知県埋蔵文化財センター

日 時：12月7日（土）13時～16時30分

12月8日（日）10時～16時

会 場：名古屋市博物館 講堂・展示説明室

参加者数：12月7日（土）197名、12月8日（日）169名 合計366名

出展団体・個人：プレゼンテーション9、ポスターセッション16（エントリー制）

講 演：杵名貴彦（独立行政法人国立科学博物館理工学研究部研究主幹）

事例報告・パネルディスカッション：

熊崎 司（津市教育委員会）、井川祥子（岐阜市教育委員会）、
鈴木正貴、堀木真美子、蔭山誠一（愛知県埋蔵文化財センター）

◎12月7日（土）13時～16時30分（12時30分開場）

13:00～13:10 開会あいさつ

<プレゼンテーション>

13:10～13:30「愛知県の古代寺院における造営尺度の推定」河嶋優輝（愛知県埋蔵文化財センター）

13:30～13:50「横穴墓群にみられる階層構造の分析－静岡県域を対象として－」

林 順（名古屋大学人文学研究科博士前期課程）

13:50～14:10「古代のやきもの産地 猿投窯の施釉陶器－日光男体山の信仰と施釉陶器－」

立原遼平（青山学院大学大学院文学研究科）

14:10～14:25 ◆宣伝タイム

14:25～14:50 ◆休憩

14:50～15:10「愛知県新城市萩平遺跡A地点隣接地第7次調査の成果」徳永 司・長井謙治（愛知学院大学）

15:10～15:30「古城山窯跡第3次調査報告」下田大真（愛知学院大学）

15:30～15:50「雲錦手の研究－幹・葉・花の図像典拠に関する考察－」青木 修・宮川菜々子・佐久間真子
・井上あゆこ・中野耕司・鈴木智恵・安藤 悟（犬山焼ミュージアム）

15:50～16:00 ◆2日目の案内と関連展示の案内

◎12月8日（日）10時～16時（9時30分開場）

10:00～10:05 2日目日程・連絡

<プレゼンテーション>

- 10:10～10:30「兄弟を探してー清洲城下町出土瓦編ー」白樫 淳(株式会社 アコード)
10:30～10:50「久留倍官衙遺跡公園について」大原涼子(四日市市教育委員会)
10:50～11:10「岐阜県関市古町遺跡(関鍛冶発祥の地)発掘調査成果」伊藤 聡(関市文化財保護センター)
11:10～11:20 ◆宣伝タイム
11:20～12:30 ◆昼休憩

シンポジウム 「城下町を彩った金・銀・銅」

- 12:30～12:40 趣旨説明 「城下町を彩った金・銀・銅 シンポジウムについて」
蔭山誠一(愛知県埋蔵文化財センター)

<講演>

- 12:40～13:40 「城下町を彩った金・銀・銅」
杵名貴彦(独立行政法人国立科学博物館理工学研究部研究主幹)

<事例報告>

- 13:40～14:00 事例報告1「多気北畠氏遺跡」熊崎 司(津市教育委員会)
14:00～14:20 事例報告2「鷺山遺跡群ー福光城下町の銅細工工房ー」井川祥子(岐阜市教育委員会)
14:20～14:40 事例報告3「清洲城下町遺跡」
鈴木正貴・堀木真美子・蔭山誠一(愛知県埋蔵文化財センター)
14:40～15:30 パネルディスカッション
(パネラー 杵名貴彦・熊崎 司・井川祥子・鈴木正貴・堀木真美子、司会 蔭山誠一)
15:30 閉会あいさつ

<ポスターセッション>

- (1)「設楽ダム事業に伴う発掘調査2019」愛知県埋蔵文化財センター
(2)「雲錦手ー春秋を彩る犬山焼ー」青木 修・宮川菜々子・佐久間真子・井上あゆこ・中野耕司
・鈴木智恵・安藤 悟・藤田沙樹(犬山焼ミュージアム)
(3)「古代のやきもの産地・猿投窯の施釉陶器ー白瓷生産の拡散と猿投窯系工人の動向を考えるー」
青木 修・大西 遼・立原遼平・中里信之(東海窯業史研究会)
(4)「久留倍官衙遺跡公園について」大原涼子(四日市市教育委員会)
(5)「兄弟を探してー清洲城下町出土瓦編ー」白樫 淳(株式会社 アコード)
(6)「2019年度 東海市畑間・東畑遺跡の発掘調査について」早川由香里(東海市教育委員会)
(7)『新編 西尾市史 資料編1 考古』西尾市教育委員会 市史編さん室
(8)「名古屋市内の民間発掘調査事例の紹介」株式会社 イビソク 文化財コンサルタント事業部
(9)「熊野高見遺跡・熊野水田遺跡」銅坂有紗(春日井市教育委員会)
(10)「学校における考古資料の活用」大塚友恵(NPO法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク)
(11)「史跡本證寺境内発掘調査成果」植田美郷(安城市教育委員会)
(12)「文化財を用いた情報発信の一事例」西村誠治・植木 萌(ナカシャクリエイト株式会社)
(13)「遺跡から出た何だコレ！？ー科学分析で材質を探るー」竹原弘展(株式会社 パレオ・ラボ)
(14)「土器で塩を作ってみた！」吉田真由美(鈴鹿市考古博物館)
(15)「2019年度 豊田市伊保古瓦出土地(伊保白鳳寺)の発掘調査」
島田莉菜・方 美樺(名古屋大学大学院人文学研究科)
(16)「考古学フォーラムのご案内」考古学フォーラム

<<考古学セミナー アンケート結果より>>

12月7日(土)と12月8日(日)に、プレゼンテーション・シンポジウムの会場であった講堂の受付にて、考古学セミナーのアンケートを行った。両日で105名の方からアンケートを回収した(表を参照)。

アンケート内容		12/7 (土)	12/8 (日)
参加者数		197名	169名
回答数		45 (22.8%)	60 (35.5%)
1.今日はどちらからお越しですか？	a.名古屋市内	26	35
	b.愛知県内(名古屋市内外)	17	19
	c.愛知県外	2	6
2.このイベントは何を見てお知りになりましたか？	a.博物館に来場して	8	7
	b.ホームページ	9	12
	c.考古学セミナーチラシ	12	23
	d.知人から	6	3
	e.発掘された日本列島2019チラシ	15	22
	f.その他	6	1
3.あなたの性別を教えてください	a.男性	36	43
	b.女性	8	16
4.あなたの年齢を教えてください	a.中学生以下	1	1
	b.高校生	0	1
	c.大学生	5	0
	d.一般	40	59
5.このイベントへの参加は今回で何回目ですか？	a.初めて	18	23
	b.2回目	8	10
	c.3回目	6	11
	d.4回目以上	13	16
6.今年のセミナーで特に面白かった内容はどれですか？	a.プレゼンテーション	24	14
	b.ポスターセッション	7	9
	c.宣伝タイム	2	3
			43

またアンケートの質問7でシンポジウムの感想と要望を質問8で今後の参加したいイベントや活動について多くの回答を得た。

シンポジウムに対する感想と要望では、講演を聴講しての感激の他、列島展との共催は良かった、古い発掘調査を再調査しより詳細な情報を把握しようという発表、盛りだくさんの内容・最新情報を知れたこと、遺跡から出土する金属製品について歴史と理化学の両分野からもたくさんの情報を得ることができること、多角的な城下町の各拠点について共通点と差異が明らかになること、発掘されたものから金・銀・銅について知ることができること、地元の鷺山の遺跡について知ることができたことなどについて良い感想をいただいた。一方で、基調講演はもう少し時間をかけて聞きたかった、休憩を途中に入れてほしかった、質問時間が欲しかった、専門用語が多く出されて初学の者には難しいという意見をいただいた。今後、シンポジウムの時間配分や一般の参加者への説明資料の配布などの改善をしていきたい。

今後の参加したいイベントや活動については、旧石器時代から中世・戦国時代にかけての各時代の発掘調査の成果や各時代に関連した講座、石器や土器・陶器作りなど体験型のイベント、子供向けのワークショップ、テーマとして縄文～古墳時代の日本を含めた東アジアの「墓制」、邪馬台国と狗奴国、中世の土器・陶磁器の暦年代、中世から戦国時代の城郭などのシンポジウムのような研究発表などの意見をいただいた。



▲プレゼンテーション講堂受付



▲ポスターセッション会場入口



▲宣伝タイム(犬山焼ミュージアム)



▲設案ダム関連調査ポスターセッション展示



▲宣伝タイム(発掘された日本列島2019)



▲ポスターセッション展示会場風景



▲シンポジウム沓名貴彦氏の講演



▲シンポジウムパネルディスカッション

考古学体験とバックヤードツアー

場所：愛知県埋蔵文化財調査センター

日時：8月1日（木） 10時から12時／午後1時から3時

対象：小・中学生とその保護者

参加人数：24名

今年度実施した考古学体験とバックヤードツアーは、小・中学生とその保護者を対象として夏休み期間中に合わせて実施した。

バックヤードツアーは「バックヤードツアーで肝だめし！！」として、特別収蔵庫に順路を設定し、順路上には各遺跡から出土した獣骨や人骨、木製卒塔婆を配置した。バックヤードツアーには肝だめし的な趣向やクイズラリー的な要素を凝らしたことが奏功し、参加者の悲鳴や歓声が多く聞かれた。終了後は、改めて収蔵庫を案内して、特別収蔵庫の役割、各遺物について担当者が解説した。

考古学体験は「縄文人が使った石を調べよう！！」として、遺物整理室で滝瀬遺跡（設楽町）の集石遺構で一括して取り上げた礫を用いて、実際に石材を分類する作業を20分から30分程度で体験した。参加者は石材の分類から分類後の収納までの一連の作業を体験し、その際、用意したワークシートに石材の種類と特徴を各自で記入してもらい、それを持ち帰るようにした。

今回の企画は対象とした小・中学生関心からの関心が高く、考古学の体験も含めて楽しく参加して頂いたようであった。



▲縄文人が使った石を調べよう！



▲縄文時代の石器を用いた考古学体験



▲収蔵庫内をめぐる肝試し！



▲肝試し的に配置した収蔵資料

この夏、キミは考古学者になる！

こうかくしや

設楽町(しだらちょう) 滝瀬遺跡(たきせいせき)の縄文時代(じようもんじだい)の人びとがつかった石をくわしく調べます!!

まずは遺跡を知ろう!



大きなダムができるので、その前に発掘調査(はつくつさ)をしたよ! まわりには自然がいっぱい! 近くにはきれいな川も流れているよ!! 縄文時代の人びともくらしやすかったんじゃないかな...



穴には石がギッシリ! いろんな色があってきれいだね! ざっと7,000年前ごろのものじゃないかな... 石はぜんぶ持ち帰ってくわしくしらべよう!!

●持ち帰った石は水できれいに土をあらひ落とします。
洗い終わった石は1階の収蔵庫(しゆぞくぐら)に大事(だいじ)にしまっています!
(収蔵庫は建物の2階と3階にもあります。)



設楽町がどこか知ってる?

愛知県(あいちけん)がゆの形(かたち)だとすると、ぬの部分が弥富市(やとみし)。目の部分が愛知県埋蔵文化財センター(あいちけんまいざうぶんかざいさんた)。お民のあたりが設楽町です!



おきでいせき
滝瀬遺跡

1. 土層(どそう)の発露(はつろ)部分(ぶんぶん)から出てきた石をよくかんさつしておこう! 光ってる? ツルツルしてる? ザラザラしてる? シマシマがある? ブツブツがある?... 石のわれ方もいろいろあるよ!
2. 土層(どそう)の整理室(せいりしつ)で石の見た目(めい)・ざわりなどで分けてみよう!
3. 土層(どそう)の石(いし)がどんな? 多い順(おほいじゆん)に石のしゅるいとそのとちようを書こう!!

石のしゅるい	とちよう
1.	
2.	
3.	
4.	

4. かんさつ(かんさつ)ができてきた!
5. 石(いし)はどこから持ってきた? どんな石(いし)をえらんで持ってきた?
6. 石(いし)の大きさや、石のしゅるいごに重さをはかりたいよ!
7. 土層(どそう)の発露(はつろ)部分(ぶんぶん)の場所(ばしょ)や、ほかの遺跡(いせき)ともくらべたりもするよ!!

縄文時代(じようもんじだい)の人はこんなふうにして料理(りょうり)をした??

キャンプ(きゃんぷ)みたいだね!

(縄文島(じようもんじま)県(けん)上野原(じやうのはら)遺跡(いせき)現地(げんち)説明(せつめい)会(かい)資料(しりょう)より)



◀ 考古学体験 ワークシート ▶

あなたの知らない何千、何百年前の世界

特別任務

じりくしゅ

とくべつにん

ミライの考古学者となる君たちに①～⑥の特別任務を与える！
部屋で必ずさがし出し、クリアしてから、ゴールするのじゃ！
こわがっているのは考古学者にはなれない！それでは健闘を祈る！

ナン

① 謎の合言葉、“ジョー”と聞かれたら、“モン”と答え！

② “鳥居強右衛門隠死”キミにはこの漢字を読んでもらおう！

③ “ワシ”が長い間ねむるためには見がらが必要なのじゃ！
決してこわがらずに、必ずそれを取ってきてくれ！

けげげ

どうかい

④ ゲゲゲ……、墓場には“妖怪”がかくれておるぞ！
それをさがし出すのじゃ！

ひそか

せ

⑤ 秘密の“巻き物”が置いてある！それをゲットするのじゃ！

今日、あなたが見て

安城町地下遺跡の土間に描かれた人面

4,000年前のハート型土偶 (5)

まきのかしら (5) しんろう
マキノ沢遺跡 (飯塚町)
縄文「フエ」の時代の小さな女神像
なぜか顔がハートの形をしている！

2,000年前の若生土偶 (人)

あかひい (5) まさし
朝日遺跡 (清瀬市ほか)
15号さん (身長165cm、男性)
足を曲げて埋められている！
女神はここに20人以上もいる！
おまじないのうしろ
30分30秒

ワシは1400年前に生きておった！

1,500年前に埋められたイヌ

おつぎ (5) まさし
松崎神社遺跡 (東海市)
昔も今も犬は友だち！

すくも (5) まさし
松崎神社遺跡4号さん (身長163cm、20代男性)
ワシは貝のおかげでよく寝たのじゃ！

お墓でよく見る寿楽堂 (5)

700年前に埋められたクマ (の顔) “特別ゲスト”

いり (5) まさし
石巻神社遺跡 (新城市)
君の高は小さかった！
おまじないのうしろ
長種・段家原の戦いの鉄砲玉も出ている！

うしろ (5) まさし
石巻神社遺跡 (新城市)
長種・段家原の戦いで有る！
おまじないのうしろ

おまじないのうしろ
清瀬城下町遺跡 (清瀬市)
木の板にお経 (5) が書いてある！
どうか成仏して下さい！

連続歴史講座・埋文市民大学 「石の考古学」

目的：当センターの調査研究員が一般市民向けに、共通したテーマで研究成果を発表するとともに、体験を通じて考古学の研究方法を学んでもらう。

場所：愛知県埋蔵文化財調査センター 2階 研修室および1階 1次整理室

時間：連続歴史講座は午前10時30分より、埋文市民大学は午後1時30分より開催。参加費は無料。

連続歴史講座『石の考古学』

	日程	タイトル	講師	参加者数
第1回	9月14日	考古遺物と岩石学	堀木真美子	29名
第2回	9月28日	石器の形態から見る石器時代史	田中 良	27名
第3回	10月26日	中近世の石造物	池本正明	15名
第4回	11月16日	弥生時代 磨製石斧のライフサイクル	蔭山誠一	13名

埋文市民大学『石の考古学』

	日程	タイトル	講師	参加者数
第1回	9月14日	考古遺物と岩石学	堀木真美子	10名
第2回	11月16日	石を磨こう！	蔭山誠一	9名



市民大学（資料の観察）



歴史講座の風景



市民大学（研究発表）



歴史講座の風景



歴史講座 「発掘された西三河の城 2」

目的：連続歴史講座を弥富市に所在する愛知県埋蔵文化財調査センターで平成26年度より実施しているが、三河地域の方々が参加しやすい様にと考え、昨年度と同様に当センターが所属する公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団の管理施設である「愛知県青年の家」を会場として歴史講座を開催することとした。また岡崎市に所在していることから、岡崎市教育委員会に共催を依頼し、最新の発掘調査の成果報告も行うこととした。

下記の日程・内容での準備が進められていたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、今回の歴史講座の開催は中止となった。

なお、講座資料集は可能な機会に希望者に配布を行い、PDFデータも公開している。

日時：令和2年2月29日(土) 午後1時～4時 (12時30分会場)
場所：愛知県青年の家 第4研修室 (多目的ホール) 岡崎市美合町並松1-2
主催：愛知県埋蔵文化財センター・岡崎市教育委員会
内容：西三河に所在する城のうち、発掘調査が実施された5遺跡の成果報告と出土遺物である「かわらけ」の研究報告を行い、同時に土器やパネル展示を行う。

＜発表＞

- 能見城跡(豊田市) 蔭山誠一
- 東端城跡(安城市) 宮腰健司
- 御船城跡(豊田市) 武部真木
- 大平本城跡(豊田市) 池本正明
- 戦国時代のかかわらけ 鈴木正貴
- 岡崎城跡(岡崎市) 山口遥介(岡崎市教育委員会)

歴史講座
発掘された西三河の城 2



岡崎城跡 復元された金箔瓦

令和2年2月29日(土)
会場：愛知県青年の家

資料

▲資料集表紙



▲会場のパネル展示

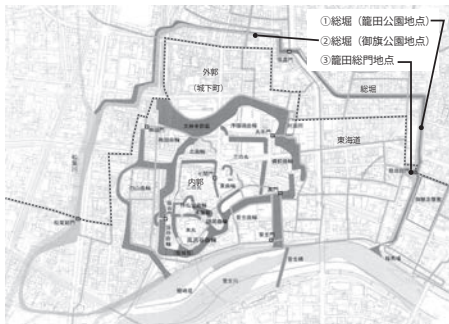


▲開催を紹介する新聞記事

おかざきじょうあと
岡崎城跡 (総堀)

岡崎市教育委員会 山口通介

「岡崎城跡整備基本計画・平成28年度改訂版」に基づき、岡崎城跡の遺構確認を目的とした発掘調査を継続的に実施しています。平成30・31年度は岡崎城総堀跡及び龍田跡にて発掘調査を行い、総堀の土壁や堀法面などが確認されました。また、近代以降ではありますが、石垣や下水管などが総堀跡を利用してつくられていることがわかりました。



城郭重ね図

①籠田公園地点

総堀の東辺にあたります。明治17年の地籍図では水路敷きとして総堀の痕跡が残ります。近代になって総堀法面上部に石垣が新たに築かれています。



近代石垣の背後の落ち込み（堀法面）

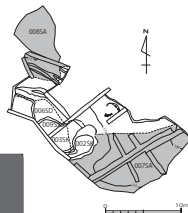


調査位置図 (M17 地籍図に加筆)

おおだいらほんじょうあと
大平本城跡

大平本城跡は豊田市大平町に所在します。発掘調査と地盤調査結果に基づき事件発生までの、2011（平成23）年に実施しました。今回の調査は大平本城跡の南西側の部分で、標高は375m。小規模な一段の平野面とその周辺の地形となります。

調査結果、下段の平野面は標高400m（400SK）より拡張され、東西に東山（007SA・008SA）も横切ったものであったと考えられます。この平野面の南西側は15世紀前半と大平城跡の南端の輪郭の一つであったと考えられます。出土遺物は15世紀前半～16世紀前半と大平城跡に区分できます。大平本城跡の建設時期は不明ですが、当時の近衛もあり、後者は廢城後の再利用に併存の大小城と考えられます。



のうみじょうあと
能見城跡

能見城跡は奥田村御前町(旧加茂郡加茂町大字御前町)にある国府時代の山城です。北東方向には近道と見られる尾根跡に伴って石段が残り、1998年(平成10年)に調査されました。北東方向へ突き出た高さ330mの尾根の頂上に位置します。尾根の西端をさざ刈河原の頂上より50mほど高い場所にあり、眼下と東麓部を見下ろすことができます。尾根には15世紀前半から戦国に貫けたと思われる溝で、南北38m、東西32mの広さを持ちます。突落箇所より急勾配の斜面で、ゆるく傾いて広がる平坦面が確認できます。これらのうち、急勾配の斜面で覆りがあり、ゆるく傾いて広がる平坦面は周囲11m、土層が傾斜方向の縁部から突出しています。出土遺物で15世紀後半から室町時代前期の陶器類(磁器、漆器、銅器類)、鑓・鋤などの調理具、石製道具が出土しています。城跡の立地から河川利用をなさていて、美濃方面で流通した美濃白磁が城跡から出ています。



天目茶碗



撰誌

● 戦国時代のかわれけ（土師器皿）

愛知県埋蔵文化財センター 鈴木 正貴

愛知県下の土師器皿は古代末期から登場します。古代（11世紀頃）まで食器は灰胎陶器が中心で、土師器皿はわずかしかなりなく、底部に回転糸切り痕を残すロクロ調整の製品ばかりでした。

中世（12世紀後半頃）になると、底部に回転糸切り痕を残さない手づね調整土師器皿が出現ようになりますが、その割合が地域で異なります。尾張では手づね調整が主体、西三河ではクロク調整が主体、東三河では両者が半々くらいでした。これが15世紀中頃には、なぜか東三河では手づね調整が主体、西三河ではクロク調整が主体、尾張では両者が半々になります。

一方、土師器皿は出土量が場所により偏る傾向が確認されています。中世前半から拠点的な遺跡や屋敷で多く出土し、戦国時代では拠点的な城跡や居館で大量出土する事例が散見されます。一般に土師器皿（特に手づね調整）は京都の影響を受けたものと考えられており、この地方では主従関係などを確認するための儀礼に用いられた可能性が指摘されています。

ひがしばたじょうあと
東端城跡

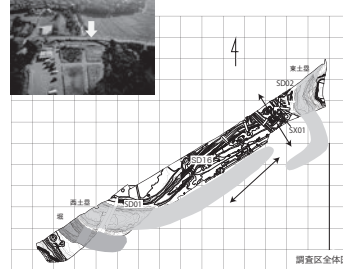
愛知県埋蔵文化財センター 宮腰健司

東城塚跡は安城市東城川に亘る戦国時代の城址です。発掘調査は現在地を農業用地と転用する建設作業等に伴う事前調査で、2001年12月に実施しました。安城市・市南東ととの境に土盛り遺構があり、その北西には東城川が南流する。標高7～8mの台地の北に東城塚跡は位置します。東城塚は1580年12月の大坂・長久手・長久保の戦いで、長田元長(元長)の西陣に落ちたとされています。その後、長久手・大坂(1584年・12月)で活躍した徳永永井八郎衛門と云われ、1616(元禄2)年に市南東で初めて徳田重國(重國)に招かれ戦ったとされています。発掘調査では遺構に伴う遺構の下に土間が出土したことから城跡の築期は16世紀前半の、調査区と東城川に接する部分には土塁も出土しています。さらに西の土塁の外側(西側)には約4.3m、深さ約1.4mの溝が確認されています。



◀ 遺跡の遠景

矢印が調査区。
北から臨む。南には油ヶ瀬がひろがります。



みふねじょうあと
御船城跡

愛知県埋蔵文化財センター 武部真木

調査地域は、2001年（平成13年）に実施した調査で、発達障害児は現地に自閉症自閉性障害に伴う学習障害、2004年（平成16年）に実施した。また、2011年（平成23年）には市建設局の調査に伴い、豊田市教育委員会より同地域調査の調査も行われた。調査地は、豊田市水南町にある大寺町の南に立寄り上り坂の丘陵地であり、現地の中心部から南東へ向かう丘陵地の上、標高約75mに位置している。調査地は、現地の市道（豊田市道）第一帯を挟んで1つの国家のものは国土地理院の地形図の地質データから第三紀花崗岩と考えられ、近頃のものは1470年以前に形成のおくれ、水村の土（1564）に侵入されたで存在しているといわれている。発達障害児が居住した地質と土質に関する3.5~3.7m、深さ40~60cmの調査結果を認めた。また、土質の調査結果や、調査地から近所の海浜調査の結果が出ている。字の境界は、地質図から読みとれる地層の方向とほぼ一致している。この調査が豊田市に隣接する区画の一部であると思われる。



◀ 遺跡遠景

矢印が区画溝（SD04）が確認された調査区（01C区）。
現在は東海環状自動車道が通ります。



▲歴史講座資料集より

